補助動詞「～ている」と「bayiqu」について一考察

巴德瑪

(内蒙古大学 外国语学院,内蒙古 呼和浩特 010021)

要旨: 本研究は,日本語の補助動詞「~ている」とそれに対応するモンゴル語の補助動詞「bayiqu」を対照し,相互の共通点と相違点を明らかにするとともに,モンゴル語の補助動詞「bayiqu」の文法的な意味及び,前接動詞との接続パターンの特徴をも究明したものである。

キーワード: 補助動詞;日本語;モンゴル語;共通点;相違点

中图分类号码: H212　　　　　　**文献标识码:** A

日本語の補助動詞「～ている」は日本語のアスペクトの意味を表す最も重要な役割を果たしており,これまで数多くの優れた研究成果が出されている。一方,モンゴル語の補助動詞「bayiqu」はモンゴル語のアスペクトの意味を表す主な補助動詞の一つであり, ほかの補助動詞と比べ,研究がかなり進んでいると言えるだろう。しかし,モンゴル語の補助動詞の研究そのものがあまり進んでいないため,日本語の補助動詞「～ている」の研究に比べ,未だに解決されていない問題点が多々存在している。

そこで,本研究では,日本語の補助動詞「～ている」とそれに対応するモンゴル語の補助動詞「bayiqu」を対照し,相互の共通点と相違点を明らかにしたい。それと同時に,モンゴル語の補助動詞「bayiqu」の文法的な意味及び,前接動詞との接続パターンの特徴をも究明していきたい。

本研究では,先ず日本語の補助動詞「～ている」の意味・用法について先行研究を紹介し,問題点を指摘するとともに,本研究での位置づけを示す。次に,モンゴル語の補助動詞「bayiqu」についても先行研究の紹介及び問題点を指摘する。それから,補助動詞「～ている」と「bayiqu」を対照し,共通点と相違点を究明する。最後に,以上の内容をまとめ,今後の課題を提示する。

一、補助動詞「～ている」

周知のように,日本語の補助動詞「～ている」の意味・用法については,これまで一定の研究蓄積が存在している。金田一(1955)をはじめ,鈴木(1958),藤井(1966),高橋(1969),吉川(1971),奥田(1977)(1978),仁田(1987),益岡(2000),日本語記述文法研究会(2007)等,高く評価すべき研究が続々と出されている。ここでは,主に,補助動詞「～ている」についてのこれまでの主な先行研究を紹介し,本研究の立場を示していきたい。

(一)先行研究

金田一(1955)では,日本語の動詞をアスペクトの側面から「継続動詞」「瞬間動詞」「状態動詞」「第四種類の動詞」と四分類し,「～ている」の意味を記述している。しかし,金田一の動詞を分類する基準に問題点が存在していたため,動詞の分類及び「～ている」の意味・用法の研究は日本語の動詞の特徴が充分に研究されていない。金田一(1955)の影響を受け,鈴木(1958)では,日本語の動詞を状態動詞と動作動詞と分類し,動作動詞を継続動作動詞と瞬間動作動詞に下位分類し,金田一より進

んだ研究成果を出している。その後,高橋(1969),吉川(1971)でも,「～ている」のアスペクト的な意味が記述されている。だが,以上の先行研究において,最も大きな問題点は「～ている」のアスペクト的な意味をその前接する動詞の語彙的な意味と関連付けながら分析しなかったことである。この問題を奥田(1977)(1978)は強く指摘し,「～ている」の前接動詞が主体の動作を表すか,或いは主体の変化を表すかによって,「～ている」を「動作の継続」と「変化の結果の継続」に二分類している。工藤(1982)(1987)(1995)は奥田(1977)(1978)の動詞の分類を大いに踏襲している。

工藤(1982)では,「～ている」は基本的に「動きの継続」と「変化の結果の継続」との二つの意味と,「反復」,「現在有効な,過去の運動の実現」,「単なる状態」等派生的な意味を表すと述べている。しかし,工藤(1995)では,「～ている」の基本的な意味と,派生的な意味の「反復」「単なる状態」は変わっていないが,「現在有効な,過去の運動の実現」を「パーフェクト性」と言い換えている。次に,工藤(1995)の内容を詳細に見ていきたい。

工藤(1995)では,現代日本語動詞をアスペクト対立の有無の観点から「(A)外的運動動詞」①「(B)内的情態動詞」②「(C)静態動詞」③と大きく三つに分類している。また,「外的運動動詞」をさらに「動作」と「変化」の側面,又は「主体」と「客体」の側面から,「主体動作・客体変化動詞」「主体動作動詞」「主体変化動詞」に下位分類している。そして,その全体を表した図を提示す

ると次の図1のようである。(図1は工藤(1995:78)からの借用である。)

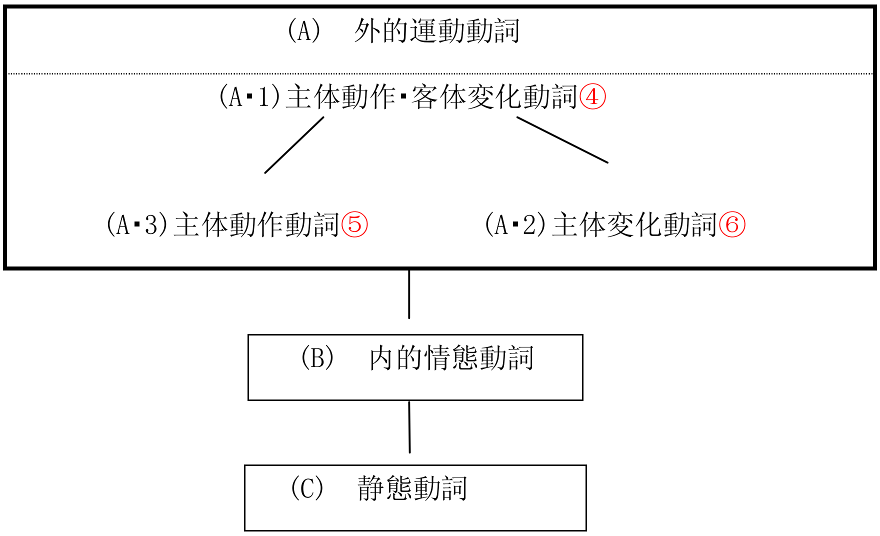


図 1

工藤(1995:72)では,また,外的運動動詞の後に結合する補助動詞「～ている」の意味を次

のように分析している。(以下の例文は工藤(1995)からの借用である。ただし,出典は省略。)

・主体動作・客体変化動詞　　動作継続(能動)(1) / 結果継続(受動)(2)

・主体変化動詞　　結果継続(3)

・主体動作動詞　　動作継続(能動・受動)(4)

(1)傍で多計代がカステラを切っていた。　　(p. 81)

(2)コスモスが植えられている。　　(p. 83)

(3)地面には雪は一尺の余も積もつていた。　　　　　　　　　(p. 84)

(4)私はその時,近くの森の中の径を歩いていたんですよ。　(p. 86)

工藤(1995)では,「内的情態動詞」を一つの動詞のグループとして分類し,外的運動動詞と同じく,時間の中に成立し,持続し,消滅し,思考･感情･感覚の「継続性」を表すと述べている。(以下の例文は工藤(1995)からの借用である。ただし,出典は省略。)

(8)「近所のひとたちも,感心しているわ」　　　　(p. 90)

(9)「私は,劉さんを友人だと思っている」　　　　(p. 91)

「心的状態動詞」は確かに「外的運動動詞」と違って動作性が弱い動詞であるが,補助動詞「～ている」の表しているアスペクトの意味は同じである。そのため,アスペクトの観点から「心的状態動詞」を一つのグループに分類する必要があるか否かについては再検討する必要があると考えられる。

森山(1988)では,心理的な動きを表す動詞は「過程」を表すが,終結点を把握しえない動詞であり,形式として「し終わる」が付かないのが特徴だと述べている。また,金水(2000:26,27)でも,「内面動詞(心的動詞)によって表される出来事は,空間内で起こる外的な出来事と比べて限界性が明瞭ではなく,また運動性も乏しいので,過程のある出来事なのか,心的な状態の変化なのか,はっきりしない場合が多い」と記述し,動詞によって,進行中の意味が強い動詞(考える,悲しむ,等)と,結果状態の意味が強い動詞(信じる,分かる,知る,等)があるとされている。

心理動詞は始まりが存在するが,終わりがはっきりしていない動詞であるということが以上の先行研究を通して示唆される。終結点は存在していなくても,開始点は存在し,それが終了点へ進行しつつあることから,心理動詞は動作の継続を表していると考えられる。従って,本研究では,「～ている」の前接動詞が心理的な動きを表す動詞の場合,「～ている」は「動作の継続」を表すと位置付ける。

(10)彼は親を亡くし,すごく悲しんでいる。

(11)将来,彼はきっと成功すると信じている。

(12)妹が進学できたので,両親はすごく喜んでいる。

(13)親はいつも子供のことを心配している。

ところで,金水(2000)では,「～ている」の基本的な意味は「継続相」であり,出来事が進行中であるならば「進行」を,出来事が達成された後の結果の状態が存在しているならば「結果」を表すと述べている。また,基本的な意味から「パーフェクト相」と「反復相」という二つの意味が派生し,その他「単なる状態」をも表すと記述している。(以下の例文は金水(2000)からの借用である。出典は省略。)

(14)田中が本を読んでいる。	――「進行」	(p. 16)
(15)窓が開いている。	――「結果」	(p. 16)
(16)この熊は1時間前に死んでいた。	――「パーフェクト」	(p. 39)
(17)私は毎日晩酌をしている。	――「反復相」	(p. 42)

(18)山羊の蹄は割れている。　　　　　　　——「単なる状態」　　　(p. 33)

金水(2000)は主に工藤(1995)での動詞の分類を踏襲し,「〜ている」の意味・用法を分析している。そこで,次に,工藤(1995),金水(2000)で記述している「パーフェクト」について検討していきたい。

工藤(1995)では,「パーフェクト」の意味を次のように定義している。

(1)発話時点,出来事時点とは異なる「設定時点」が常にあること。

(以下,それぞれに対して ST, ET, RT という略称を使うことがある。)

(2)設定時点にたいして出来事時点が先行することが表されていて,

テンス的要素としての「先行性」を含んでいること。

(3)しかし,単なる「先行性」ではなく,先行して起った運動が設定時点と

のむすびつき＝関連性をもっているととらえられているところ。つまり,

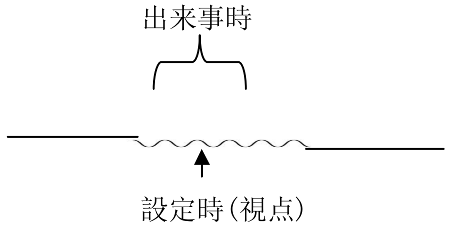
運動自体の「完成性」とともに,その運動が実現した後の「効力」も複合的に

捉えるというアスペクト的要素を持っていること。

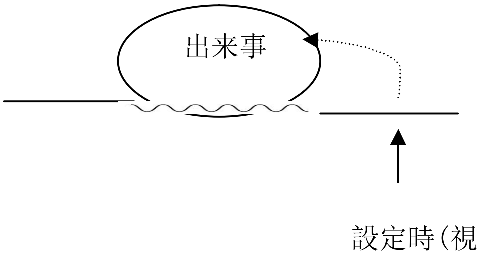
(工藤 1995:99)

金水(2000:38〜40)では,「〜ている」の継続相と「パーフェクト相」の意味的な関係を次のように図示している。そして,継続相は設定時即ち視点は出来事時の中に存在するため,出来事を丸ごと捉えられず,運動の過程と結果状態のどちらかを表現するのに対し,パーフェクト相は設定時が出来事時から離れているため,出来事を丸ごと捉えられると述べ,「効力とは,結局パーフェクト相を用いるための動機付けにすぎないのであり,極端な場合,具体的な効力を表す徴証がなくてもパーフェクト相は使える。…」とされている。

継続相



パーフェクト相



以上,補助動詞「〜ている」が表す「パーフェクト相」については,工藤(1995)は「完成性」と「効力」は相互に関連していると主張しているのに対し,金水(2000)は「パーフェクト相」には必ずしも「効

力」が存在するとは限らないと主張していることが示唆される。

一方,仁田(1987)では,以上の先行研究で述べている補助動詞「〜ている」の「パーフェクト相」に当る意味を「経験・完了」と称し,「経験・経歴」と「完了」については,

> 経験・完了とは動きが終わつたことを現在(基準時)から眺めて捉えたものである。動きが丸ごと・全体として捉えられていることによつて,動きそのものが広げられず,テイル形の根幹的意味の一要素である「持続性」が後方にかぎり,「動きの後」つまり,完了性が前面に出たものである。「シタ」に近く,動きの完了を表すものを「完了」と,近似的に「シタコトガアル」に置き換えられるところの,ある動きを以前に行つたことがある,或いは,以前に動きを行つたことが現在(基準時)に何等かの影響を与えている,といったニュアンスを帯びているもの「経験・経歴」がある。ただし,「完了」と「経験・経歴」は連続的である。

と述べている(仁田 1987:263)。その用例を取り上げると次のようである。

(19)コロンブスはアメリカを<u>発見している</u>。　　(p. 263)

(20)彼はとてつもない事件を<u>起こしている</u>。　　(p. 263)

(21)先週それについては僕が<u>調べている</u>。　　(p. 263)

しかし,同氏は「経験・経歴」と「完了」が相互に関連性を持っていると指摘するのにとどまり,具体的な叙述は行われていない。そこで,次の例文を考えてみたい。

(22)花子は2冊の小説を<u>書いている</u>。

(23)彼は去年北海道に<u>行っている</u>。

例文(22)は花子が既に2冊の小説を執筆した経歴を持っていることを表している。「花子は小説を書いている」というと,現在,執筆が進行していることを表すのが普通である。しかし,「2冊」という数詞が挿入されることによって,小説は既に書き終り,経歴として存在していることを表している。また,例文(23)は「彼は去年北海道に行ったことがある」というように,経験・経歴を表す文法形式である「〜たことがある」と入れ替えることが可能である。従って,この例文での補助動詞「〜ている」も経験・経歴を表していると考えられる。

補助動詞「〜ている」が表す「経歴」の用法については,日本語記述文法(2007)の方がより適切だと考えられる。日本語記述文法(2007:31)では,「「経歴」とは,ある動きがかつてあったということが主体の状態に何等かの関係を持っていることを表す方法である。……経歴は動きの過程には注目しない用法なので,動きのタイプには関係ない。」と述べている。(以下の例文は日本語記述文法(2007:31)からの借用である。)

(24)佐藤は以前この道を<u>歩いている</u>。だから,迷うことはない。

(25)鈴木は1度<u>結婚している</u>。

日本語記述文法(2007)は,また,「経歴」は「時間を表す副詞的成分がある場合,その成分は動きが実現した時点を表す。…ただし,基準になる時点を発話時とは別に立てて,その時点においてその出来事が成立済みであることを表す場合もある」と述べられている。

(以下の例文は日本語記述文法(2007:31)からの借用である。)

(26)この作家は,1950年にデビュー作を書いている。

(27)来年の今頃には,山本はもう結婚している。

(二)本研究における補助動詞「～ている」

補助動詞「～ている」の意味・用法について,本研究では,これまでの先行研究を踏まえ,次のように扱うことにする。

補助動詞「～ている」は「動作の継続」,「結果の持続」,「単なる状態」,の三つの基本的な意味と「経歴」,「反復」,の二つの派生的な意味を表し,前接する動詞の性質,文脈共起する副詞等の要素によって,どの意味になるのかが決定される。

1.動作の継続

動作の継続は補助動詞「～ている」が動きを表す動作動詞の後に後続し,動作の進行中の状態を表すものである。

(28)山田はセーターを編んでいる。

(29)田中は段ボールを潰している。

(30)学生達がグランドを走っている。

(31)子ども達がテレビを見ている。

例文(28)(29)において,補助動詞「～ている」の前接動詞は主体の観点からは動作を表し,客体の観点からは変化を表す他動詞である。また,例文(30)(31)において,補助動詞「～ている」の前接動詞は主体の動作のみを捉えている他動詞や自動詞である。工藤(1995)では,前者を「主体動作・客体変化動詞」と,後者を「主体動作動詞」と名付けている。本研究ではそれを借用する。

また,補助動詞「～ている」の前接動詞が「考える,感じる,信じる,心配する,等」心理的な動きを表す心理動詞の場合,補助動詞「～ている」は動作の継続を表している。

(32)親はいつも子供の事を心配している。

(33)今,海外へ留学したいと考えている人が多いようである。

(34)彼は両親を亡くし,すごく苦しんでいる。

2.結果の持続

結果の持続とは,変化によって生じた状態が持続していることを表す。この場合,補助動詞「～ている」の前接動詞は主体の変化を表す変化動詞である。

(35)研究室の窓が開いている。

(36)鍋の油が固まっていた。

(37)お客さんが二列に並んでいる。

(38)彼は帽子をかぶっている。

以上,四つの例文において,補助動詞「～ている」は主体がある状態から他の状態へと変化し,その変化した状態が持続していることを表している。この場合の前接動詞は主体変化を表す動詞である。ただし,次の例文のように,補助動詞「～ている」が「動作の継続」と「結果の持続」との両方の意味を持っている動詞も存在する。

(39a)花子は着物を着ている。

(39b)花子は今着物を着ている最中である。

(40a)佐藤は去年よりかなり痩せている。

(40b)佐藤は徐々に痩せている。

例文(39a)(39b)の前接動詞は同じく「着る」という動作動詞であるが,この二つの文は異なった意味を表している。例文(39a)は花子が現在,着物を着た状態でいること,即ち結果の持続を表している。これに対し,例文(39b)は時間を表す副詞「今」と共起し,花子が現在

着物を着ている最中であることを表している。「着る」と同じく,「はく,脱ぐ,はおる,…」等の動詞は主体の動作によって,主体に変化が発生する特殊な動詞であり,工藤(1995)では「再帰動詞」と呼んでいる。

一方,例文(40a)(40b)の「やせる」動詞は再帰動詞ではないが,共起する副詞によって「動作の継続」と「結果の持続」との両方の意味が表せる。例文(40a)は「一年前と比べ,現在佐藤さんはかなり痩せた」という変化の結果の状態が持続していることを表している。一方,例文(40b)は佐藤が毎日のように痩せていっている「動作の継続」を表している。「やせる,太る,増える,減る,等」の「動作の継続」と「結果の持続」の両方の意味を含む動詞を奥田(1978)では,「二側面動詞」と呼んでいる。

以上,「再帰動詞」,「二側面動詞」は基本的に主体の変化を表す動詞であり,後接する補助動詞「～ている」は「結果の持続」を表す。ただし,共起する副詞,又は文脈によって「動作の継続」を表す場合もあり,補助動詞「～ている」が表す「動作の継続」と「結果の持続」は相互に連続している。

3. 経歴

「経歴」とは,ある動きがかつてあったということが主体の状態に何らかの関係を持っていることを表す用法である(日本語記述文法研究会 2007:31)。

(43)田中は大学時代アメリカに留学している。

(44)斉藤は三冊の小説を書いている。

前接動詞が主体の動きの過程を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」は動作の継続を表すが,前接動詞が主体の変化結果を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」は結果の持続を表す。

(45)彼は英語を勉強している。　―――動作の継続

(46)彼女は離婚している。　―――結果の持続

だが，補助動詞「～ている」が表す経歴は前接動詞の性質とは関係せず，文脈又は副詞的成分によって二次的に表現される。

(45a)彼は大学時代英語を勉強している。　　　　———経歴

(46a)彼女は5年前に離婚している。　　　　———経歴

4. 反復

ここで指している「反復」は仁田(1987:262)での「繰り返し的持続」に当たるものであり，その定義を「同じ動きが適当なインターバルを置いて何度か繰り返されるその過程を持続状態として捉えたものである」と述べている。本研究では，この定義に従うことにする。

(47)花子は何回も自転車を無くしている。

(48)私は携帯電話を何度も落としている。

(49)大震災の後，余震が毎日のように起きている。

また，この「反復」について，仁田(1987)，金水(2000)では，補助動詞「～ている」の基本的な意味から派生した用法と述べ，工藤(1995)では，次のように述べている。

「こうして，(1)運動の時間的展開の把握の仕方に関わるアスペクト的側面，

(2)運動の時間的位置づけの仕方に関わるテンス的側面，(3)参加者の具体性

の有無と運動する時間的限定性の側面，(4)運動のアクチュアル性の有無に

関わる広義ムード的側面，という4つの要素からの絡み合いの中に，「反復相」

を表す文は存在していると思われる」　工藤(1995:150)

(50)花子は小説を書いている。　　　　——動作の継続

(51)花子は毎日小説を書いている。　　　　——反復

(52)そこに人が死んでいる。　　　　——結果の持続

(53)病気で大勢の人が死んでいる。　　　　——反復

以上，補助動詞「～ている」の「反復」の意味は「動作の継続」と「結果の持続」の二つの意味から派生したものであり，「何回も，何度も，毎日，いつも，等」繰り返しの意味を表す副詞，又は「大勢，多数，大量，等」量を表す副詞と共起することが多い。

5. 単なる状態

補助動詞「～ている」の前接動詞が主体の動きや変化を表さず，単純状態を表す状態動詞⑦の場合，補助動詞「～ている」は「単なる状態」を表すとする。

(54)日本は太平洋側に面している。

(55)村の北側に高い山々がそびえている。

(56)両党の意見が対立している。

(57)この政策に多くの問題点が存在している。

この場合,補助動詞「～ている」に前接する動詞は「～ている」の形しか持たない状態動詞,又は「する・している」形の両方の形を持った状態動詞である。

二、補助動詞「bayiqu」

本節では,日本語の補助動詞「～ている」に対応するモンゴル語の補助動詞「bayiqu」について記述する。補助動詞「bayiqu」はモンゴル語の他の補助動詞と比べ,比較的に研究が進んでいるとは言えるものの,分析不十分なところも多々存在している。

そこで,本研究では,補助動詞「bayiqu」についての先行研究を紹介するとともに問題点を指摘し,補助動詞「bayiqu」と前接動詞との接続パターン一結合型「-ju/jU,cu/cU bayiqu」,分離型「-Gad/ged bayiqu」,同時型「-n bayiqu」について考察する。(以下,それぞれ「-ju bayiqu」「-Gad bayiqu」,「-n bayiqu」と略記する。)

(一)先行研究と問題点

①内蒙古大学蒙古学学院蒙古語文研究所(1964)

内蒙古大学蒙古学学院蒙古語文研究所(1964:479)では,「-ju bayiqu」は進行相を表し,「-Gad bayiqu」は反復相を表すと述べている。(以下の例文は内蒙古大学蒙古学学院蒙古語文研究所(1964:480)からの借用である。)

(1)yaGu cu　ki=jU　Ugei　saGu=ju　bayi=n_a

何も　する－CVB　NEG　座る－CVB　いる－PRES

(何もせずに座っている。)

(2)yeke　ayu=ju　soci=bal　qaGucin-ni　kOdelU=ged

大きい　怖がる－CVB　驚く－COND　即往症－3POSS　動く－CVB

bayi=daG　yUm

いる－PRTC　SFP　(あまりにも驚き怯えさせると,いつも即往症が発作する。)

(3)ene　Uy_e-dU　baruG　kUrU=ged　bayi=qu　biyi

この　時－DAT　恐らく　着く－CVB　いる－PRTC　SFP

(この時恐らく着いているだろう。)

例文(1)の「-ju bayiqu」は進行を表し,例文(2)の「-Gad bayiqu」は反復を表し,例文(3)の動詞「bayiqu」は実質的な意味を表していると述べられている。例文(1)(2)に関する記述は賛成できるものの,例文(3)の動詞「bayiqu」は実質的な意味ではなく,補助動詞として文法化し,目的地に着いた結果状態が持続していることを表していると考えられる。

(4)ayaGan-du　usu　ki=jU/ged　bayi=n_a

お碗－DAT　水　入れる－CVB　いる－PRES

(お碗に水を入れている。)

(5) egUde-yi　　negege=jU/ged　　bayi=n_a

ドア—ACC　　開ける—CVB　　いる—PRES

（ドアを開けている。）

以上の例文において,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」との両方の接続パターンは可能であるが,表している意味が異なっている。「-ju bayiqu」の場合,例文(4)は水を入れている最中であることを表し,例文(5)はドアを開けている最中であることを表している。一方,「-Gad bayiqu」の場合は反復ではなく,結果状態を表していると考えられる。例文(4)はお碗に水を入れた結果状態を表し,例文(5)はドアが開けた状態にあることを表している。

そのため,「-Gad bayiqu」は反復を表すと述べている内蒙古大学蒙古学学院蒙古語文研究所(1964)での記述は再検討する必要がある。

②清格爾泰(1979)

清格爾泰(1979:344,345)は「-ju bayiqu」は進行相を表し(例(3)),「-Gad bayiqu」は反復相(例(4)),又は既に行われた状態相(例(5))を表すとしている。(以下の例文は清格爾泰(1979)からの借用である。)

(6) tere　　kele=jU　　bayi=n_a

彼　　言う—CVB　　いる—PRES　　(彼が言っている。)(p.344)

(7) bU　　ir_e　　gejU　　bayi=qu-du　　ire=ged　　bayi=n_a

NEG　　来る—IMP と　　いる—PRTC—DAT 来る—CVB　　いる—PRES

(来ないでと言っているのに,いつも来ている。) (p.345)

(8) tere　　kOmUn　　kejiyenei　　ire=ged　　bayi=n_a

彼　　人　　既に　　来る—CVB　　いる—PRES

(その人は既に来ている。)　　(p.345)

例文(6)の「-ju bayiqu」が進行を表し,例文(8)の「-Gad bayiqu」が結果状態を表すという清格爾泰(1979)での記述は評価すべき記述である一方,例文(7)の「-Gad bayiqu」が繰り返し動作を表すという記述は再分析する必要があると思われる。

(9) tere　　ariki　　uuGu=ju/Gad　　bayi=n_a

彼　　酒　　飲む—CVB　　いる—PRES　　(彼はお酒を飲んでいる。)

例文(9)において,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」の両方接パターンは可能であるが表している意味が異なっている。前者はお酒を飲んでいる最中であることを表し,後者はお酒を飲み終わった結果状態を表している。ただし,副詞や他の要素と共起することで,反復を表すことも可能であろう。

(10) tere　　kejiyede　　ariki　　uuGu=Gad　　bayi=n_a

彼　　いつも　　酒　　飲む—CVB　　いる—PRES

(彼はいつもお酒を飲んでいる。)

そのため，例文(7)の「ireged　bayin_a(来ている)」は普通，結果の持続を表すが，「bU　ir_egejU　bayiqu-du(来ないでと言っているのに)」という文脈が加えることで，繰り返しに行われる動作を表すようになる。

③松岡(2008)

松岡(2008)では，「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」のアスペクト的な意味はその前接する動詞によって異なると主張している。その「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」の前に来る動詞の分類⑧とアスペクト的意味の関係を表した表のみを取り上げると次のようである。

表 1 動詞分類とアスペクト的意味の関係(松岡 2008:86)

<table>
<tr><td rowspan="3">動詞分類／形式</td><td rowspan="3">状態動詞</td><td colspan="3">動作動詞</td></tr>
<tr><td rowspan="2">非限界動詞</td><td colspan="2">限界動詞</td></tr>
<tr><td>進行限界動詞</td><td>結果限界動詞</td></tr>
<tr><td>-Gad bayiqu</td><td>状態性</td><td>反復性(14)</td><td colspan="2">結果性(15)</td></tr>
<tr><td>-ju bayiqu</td><td>状態性(11)</td><td colspan="2">進行性(12)(13)</td><td>結果性(12)</td></tr>
</table>

(以下の例文は松岡(2008)からの借用。例文番号は筆者によるものである)

(11) batu　ger-tU-ben　bayi=ju　bayi=n_a

バト　家－DAT－REFL　いる－CVB　いる－PRES

(バトは自分の家にいる。)　－状態性　(p.24)

(12) egUde　negegegde=jU　bayi=n_a

ドア　開ける－CVB　いる－PRES

(ドアが開いている(開きつつある/開いた状態にある))　－進行性と結果性　(p.25)

(13) mUsU　qayilu=ju　bayi=n_a

氷　溶ける－CVB　いる－PRES　(氷が溶けている。)　－進行性　(p.29)

(14) boruGan　oru=Gad　bayi=n_a

雨　降る－CVB　いる－PRES　(雨がいつも降っている。)　－反復性　(p.37)

(15) mUsU　qayilu=Gad　bayi=n_a

氷　溶ける－CVB　いる－PRES

(氷が溶けている(溶けた状態にある))　－結果性　(p.34)

その他，塩谷・プレブジャブ(2001:112-114)は「-ju bayiqu」は進行アスペクトを表し，「-Gad bayiqu」は反復継続アスペクトを表すと記述している。また，小沢(1987:16-21)では，「-ju bayiqu」は動作が現に行われていることを表し，「-Gad bayiqu」は動作が完了していること，又は動作が反復して行われることを表すと論述している。

以上の先行研究を通し，「-ju bayiqu」は進行を，「-Gad bayiqu」は反復を表すとしている点で研究者らの見解は一致している一方，「-Gad bayiqu」の他の意味･用法についての分析は異なっていることが分かる。この中で，特に松岡(2008)が「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」のアスペクト的意味関係について詳細に分析しているため，次に松岡(2008)に従って，用語を借用しながら問題点を考えていきたい。

（二）補助動詞「bayiqu」の考察

松岡(2008)では，前接動詞が状態動詞の場合，「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は状態性を表すと主張しているが，実際に「-Gad bayiqu」の状態性を表す分析は行われていない。そこで，次の例文を考えてみよう。

(16a)batu　surGaGuli-du-ban　bayi=n_a

バト　学校－DAT－REFL　いる－PRES　(バトは学校にいる。)

(16b)batu　surGaGuli-du-ban　bayi=ju　bayi=n_a

バト　学校－DAT－REFL　いる－CVB　いる－PRES

(バトは(しばらく)学校にいる。)

(16c)batu　surGaGuli-du-ban　bayi=Gad　bayi=n_a

バト　学校－DAT－REFL　いる－CVB　いる－PRES

(バトはいつも自分の家にいる。)

例文(16a)では，「バトは学校にいる」は存在を表す無標な形式であるのに対し，他の二つの例文は有標な形式である。「bayiqu」(いる)動詞自体は状態動詞であるが，「bayiju/Gad bayiqu」と重複することで，表現する意味が異なってくる。例文(16a)は「バトは学校にいる」ことを表した存在文であるが，例文(16b)は「バトは現在学校にいる」結果状態を表しているのに対し,例文(16c)の「-Gad bayiqu」は学校にいる状態が繰り返しに行われていることを表す。

例文(16)では動詞「bayiqu」が日本語の動詞「いる」に対応する場合である。一方，動詞「bayiqu」が日本語の「ある」の意味を表す文,「tere　nom　siregen　deger_e　bayin_a」(その本は机の上にある)では,本の存在を表した無標な形式であり，その有標な形式は例文(17)(18)になる。

(17)tende　nom　bayi=ju　bayi=qu-yi　mede=gsen　Ugei

そこ　本　ある－CVB　ある－PRTC－ACC 知る－PRTC　NEG

(そこに本があったことを知らなかった。)

(18)minU　sirege-n　deger_e qoG　bayi=Gad
bayi=n_a

私－1POSS　机－GEN 上　ゴミ　ある－CVB　ある－PRES

(私の机の上にいつもゴミがある。)

例文(17)の「-ju bayiqu」はそこに本が置いてあった結果状態を表しているのに対し,例文(18)の「-Gad bayiqu」はいつもゴミが置いてあることを表している。

要するに,状態動詞「bayiqu」は重複し,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」との両方の接続形式で,文法的な意味を表すことが可能である。「bayiju bayiqu」は物事の結果状態を表し,「bayiGad bayiqu」はある状態が繰り返しに現れることを表している。

松岡(2008)では，ゼロ形式と「-ju bayiqu」のアスペクト的意味が中和する動詞(つまり，ゼロ形式と「-ju bayiqu」が存在する形式とが同じ意味を表すということである)を「状態動詞」と考え，「medekU(知る)，qayiralaqu(愛する)」を状態動詞として扱っているようである。そこで，次の例文を考えてみよう。

(19a)bi　tere　ucir-i　mede=n_e

私　その　事-ACC　知る－PRES　(私はその事を知っている。)

(19b)bi　tere　ucir-i　mede=jU/?ged　bayi=n_a

私　その　事－ACC　知る－CVB　いる－PRES (私はその事を知っている。)

(20)bi　ajil-un　tuqai　bodulkila=ju/?Gad　bayi=n_a

私　仕事－GEN　～関する　考える－CVB　いる－PRES

(私は仕事のことについて考えている。)

例文(19a)は「その事を知っていますか? 」という質問に対し,「いいえ，知らない」又は「はい，知っている」という答えを表した判断文である。これに対し，例文(19b)は知っている状態が継続していることを表す。この場合,「-ju bayiqu」は心理的動きが継続していることを表すが,「-Gad bayiqu」はやや不自然である。同じく,例文(20)の「-ju bayiqu」は考えている状態が継続していることを表し,「-Gad bayiqu」はやや不自然である。

ただし,「-Gad la bayiqu」のように,助詞「la」が挿入した場合は自然であり,繰り返し行われることを表す。その詳しい内容は第三節で詳細に記述する。

(21)eji-ben　bodu=Gad　la　bayi=n_a

母－REFL　思う－CVB　FP　いる－PRES

(いつも母のことを思っている。)

「medekU(知る)」という動詞と同じく「tOkUgerekU(分かる),boduqu(思う),qayiralaqu(愛する),bodulkilaqu(考える)， GasiGudaqu(悲しむ)，…」など，心理的な状態を表す動詞は何らかのきっかけで心理的な動きが始まり，それがいつ終わるかははっきり判断しかねる動詞である。そのため,後続する「-ju bayiqu」は動作の継続を表すが,「-Gad bayiqu」は助詞,又は文脈によって反復の意味を表す。

本研究では，「medekU(知る)，qayiralaqu(愛する)，boduqu(思う)，GasiGudaqu(悲しむ)，…」など心理状態を表した動詞は動作動詞であり,後接する「-ju bayiqu」は動作の継続を表し,「-Gad bayiqu」は共起する文の成分によって反復を表すと位置付ける。

ところで,前接動詞が動作主の動作・行為を表す動作動詞の場合,「-ju bayi-」と「-Gad bayi-」が表す意味が異なっている。

(22)abu　ariki　uuGu=ju/Gad　bayi=n_a

父　　酒　　飲む－CVB　　いる－PRES　(父が酒を飲んでいる。)

(23) tere　　cecerlig-tU　naGad=cu/Gad　　bayi=n_a

彼　　公園－DAT　遊ぶ－CVB　　いる－PRES　(彼は公園で遊んでいる。)

(24) tede　　asar　　bari=ju/Gad　　bayi=n_a

彼ら　　ビル　　建てる－CVB　　いる－PRES　(彼らはビルを建てている。)

例文(22)において,「-ju bayiqu」は動作の進行を表し，父がお酒を飲んでいる最中であることを表している。一方,「-Gad bayiqu」は父がお酒を飲み終わった状態が継続していることを表している。そして,例文(23)も同じく,「-ju bayiqu」は動作の継続を表し,「-Gad bayiqu」は反復を表している。そして,例(24)では,「-ju bayiqu」はビルを建てている最中であること,つまり動作の継続を表し,「-Gad bayiqu」はビルを建て終わった結果状態が持続していることを表している。⑨

一方,前接する動詞の性質及び共起する成分によって,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は同じく結果状態が持続している意味を表すことも可能である。

(25) egeci　　mongGul terlig-iyen　　emUs=cU/ged　　bayi=n_a

姉　　モンゴル服－REFL　　着る－CVB　　いる－PRES

(姉がモンゴル服を着ている。)

(25a) egeci　　toli-yin　　emUn_e　mongGul terlig-iyen　emUs=cU　　bayi=n_a

姉　　鏡－GEN 前　　モンゴル服－REFL　着る－CVB　　いる－PRES

(姉が鏡の前でモンゴル服を着ている。)

例文(25)の「-ju bayiqu」には姉がモンゴル服を着ている最中即ち進行中と，今着た状態で立っている様子即ち結果の維持との両方の解釈が可能である。ただし，通常は後者である服を着た状態にいることに焦点が置かれる場合が多いが,例文(25a)のように「toli-yin emUn_e(鏡の前で), alGur(ゆっくり),…」等,動作の行われる場所や動作の様態を表す副詞と共起した場合は動作の継続を表す。無論,「-Gad bayiqu」の場合は服を着た状態が持続していることを表す。よって,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は同じく結果の持続を表現することが可能であり，特に,「-ju bayiqu」は共起する文の成分によって，動作の継続を表すのか,結果の持続を表すのかが決定される。

以上,補助動詞「bayiqu」について,これまでの先行研究を概観し,問題点を指摘しながら,検討を行った。そして,先行研究の中で,特に松岡(2008)での問題点を分析しながら,補助動詞「bayiqu」の意味及び,その前接動詞の語彙的な意味と接続パターンが補助動詞「bayiqu」の文法的な意味とどのような関係を持っているのかを少し考察してみた。

①補助動詞「bayiqu」の意味･用法について,これまでの研究では,主に補助動詞のみを取り上げる場合が多く,前接動詞の意味及び,接続パターンを殆ど研究対象にしていなかった。しかし,今回の考察を通し,補助動詞「bayiqu」の文法的な意味は前接する動詞の語彙的な意味及び,接続パターンと深く関連していることが分かった。

②松岡(2008)では,モンゴル語の動詞(主にホルチン方言)をアスペクトの側面から分類し,補助動詞「bayiqu」の意味･用法を分析している。しかし,そこでの動詞の分類に多数の問題点が存在し,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」の個々の意味及び,相互の関連性についての論述は不十分である。

本研究での考察を通し,心理的な動きを表す動詞は状態動詞ではなく,動作動詞であり,且つ動作の持続を表すことが分かった。

③「-ju bayiqu」は「動作の継続」,「結果の持続」を表し,「-Gad bayi-」は「結果の持続」を表す。また,前接動詞の語彙的な意味によって,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は相互に交替可能である。その前接する動詞の特徴については,補助動詞「～ている」と「bayiqu」との比較に譲りたい。

（三）「-n bayiqu」について

橋本(2005)では，副動詞語尾「-n」の意味・機能を分類，整理すると同時に，その文法化の過程及び，イディオム化について記述している。同論文は「-n」形副動詞のイディオム化について次のように論じている。

「…イディオム化は「-n」形副動詞が定形動詞の意味の中に取り込まれてしまう場合である。副動詞が副詞化すると，主節動詞を修飾するはずなのに，ここでは反対に，主節動詞の方が副動詞を修飾しているように見える。」橋本(2005:14)

そこで挙げられている例文を借用すると次のようである(ただし，例文の出典は略す)。

(26)bi　kele=n　alda=l_a

私　言う－CVB　危うく　(私は危うく話すところでした。)　(p.15)

(27)bi　tere　Uker-i　ala=n　alda=l_a

私　その　牛－ACC　殺す－CVB　危うく

(私はその牛を危うく殺すところでした。)　(p.15)

しかし，橋本(2005)で述べているイディオムの内容と，一般的に指しているイディオムの内容は異なっている。橋本は「kelen aldal_a(危うく言う)」，「alan aldal_a(危うく殺す)」をイディオム化していると考えられている。だが，この二つの文で「aldal-a」は「放す，落とす」という動詞の語彙的な意味が薄れて文法化し，「もう少しで，危うく」等の副詞的な意味を表し，主動詞には補助的な意味を加えていると考えられる。

イディオムとは通常，慣用句，熟語，成句のことを指し，全体として配列されている単語以外の意味を表すものである。そのため，橋本(2005)で述べている「「-n」のイディオム化」という記述は不適切であり，本研究ではただ文法化と名付ける。次に，今まで論じられていなかった「-n bayiqu」アスペクト的な意味について，例文を考察しながら考えていきたい。

(28)elesU mangq_a-yi noGuGaraGulu=ju/n　bayi=daG　cibaG-mini

砂漠－ACC　緑化する－CVB　いる－PRTC　ナツメ－1POSS

demei　arbin　qaraGda=qu　Ugei

そんなに　多い　見かける－PRTC　NEG

(砂漠を緑化していたナツメはそんなに多く見かけられなくなった。)

Hun GalaGu 2007.8 p.17

(29)edUr　toGala=ju/n　bayi=ba

日　　　数える－CVB　　いる－PAST

(日々を数えていた。)　　　　　　　　　　Hun GalaGu 2007.8 p.57

(30)Galtu terge　　sUr nambatayiqan　　　　ayala=ju/n　　bayi=ju

汽車　　　　　勢いよく　　　　　走る－CVB　　いる－CVB

kUlbUm-dU　　oru=ba

フルブム－DAT　入る－PAST

(汽車は勢いよく走って，フルブムへ入った。)　　Altan Gandari 2007.1 p.40

(31)jirUke　jisUgde=n　　/jU　　sedkil　　　emtere=jU/n　　bayi=n_a

心　　切る－CVB　　心　　　　傷つく－CVB　　いる－PRES

(心身ともに苦しんでいる。)　　　　　　　Saran-u Gerel p.27

以上四つの例文において，「-n bayiqu」の前接動詞は動作動詞の下位分類である非限界動詞であり(松岡 2008)，「-n bayiqu」は動作・行為が現に行われていることを表していると考えられる。例文(28)は過去，砂漠の緑化を進化させていたナツメが少なくなっていることを表し，例文(29)は絶えずに過ぎてゆく日々を数えていることを表している。例文(30)は汽車が進行している状況を述べ，例文(31)は心身共に苦しんでいることを表している。この四つの例文において，同時型「-n」を結合型「-ju/jU,cu/cU」に代替しても，文は成り立ち，同じく進行の意味を表す。だが，文章の表現としては，同時型「-n」の方がより丁寧な表現であり，結合型「-ju/jU,cu/cU」は話し言葉に近い表現であろう。

これと同じく，以下の例文(32)(33)でも同時型「-n」を結合型「-ju/jU,cu/cU」に代替できる。

(32)qoyar jil　　Garui-yin　　　　quGucaG_a　　tusaGarla=ju/n　bayi=n_a

二年　　ぐらい－GEN　　期間　　　独立する－CVB　いる－PRES

(二年間ぐらいの間は独立していた。)　　　　Saran-u Gerel p.27

(33)jarim Uy_e-dU　altan-aca-cu　ilegUU　gilalja=ju/n　bayi=daG

ある時－DAT　　金－ABL－FP　　あまり　輝く－CVB　　いる－PRTC

(ある時金よりももっと輝いていた。)　　　　Saran-u Gerel p.160

ただし，例文(32)(33)の前接動詞は「tusaGarlaqu(独立する). gilaljaqu(輝く)」は状態を表す状態動詞である。この場合も，同時型「-n」を結合型「-ju/jU,cu/cU」と入れ替えることはできるが，表現している意味は前の「進行」と違って，物事の「状態」を表していると考えられる。そこで，次の例文を見てみよう。

(34)yaGu bUkUn　nutuG jUg　temeUle=?jU/n　temeUle=n/?jU　bayi=Gsan

全て　　　　故郷へ　　向かう－CVB　向かう－CVB　　いる－PRTC

(全てが故郷へ向かっていた。)　UbUr MongGul-un EdUr-Un Sonin 2008.2 p.1

(35)nige　sonin qacin　kOmUn　ene　qabi-bar

一　怪しい　人　この　あたり－INST

ilere=?jU/n　sirGula=?jU/n　bayi=n_a

現れる－CVB　隠れる－CVB　いる－PRES

(一人の怪しい人がこのあたりに現れたり，隠れたりしている)

『新編日蒙辞典』p.586

例文(34)(35)では，同時型の｢-n～n｣という形で繰り返し行われる動作･行為を表している。だが，これを結合型｢-ju/jU,cu/cU｣と代替した場合は，モンゴル語の文として不自然な文になる。即ち，「-n～n bayiqu」という形で，反復行為を表す時，「-n」と｢-ju/jU,cu/cU｣の入れ替えが不可能である。

一方，同時型「-n」は主に書き言葉で使われると記述されているが，その「-n」の前に来る動詞は限られているようである。

(36)tere　sin_e　ger　bari=ju/??n　bayi=jai

彼　新しい　家　建てる－CVB　いる－PAST

（彼は新しい家を建てていた。）

(37)eji　Gadan_a　saGu=ju/??n　bayi=l_a

母　外　座る－CVB　いる－PRES　(母は外に座っていた。)

(38)tere　debel-iyen　emUs=cU/??n　bayi=l_a

彼　上着－REFL　着る－CVB　いる－PRES　(彼は上着を着ていた。)

以上の例文のように，前接動詞が動作動詞，特に限界動詞の場合，「-n bayiqu」という記述がモンゴル語の文として座りの悪い文になるからである。

「-n bayiqu」についての以上の考察をまとめると次のようである。｢-ju bayiqu｣と｢-Gad bayiqu｣と同じく，「-n bayiqu」もアスペクト的な機能を持っている。「-n bayiqu」は「進行」と｢状態｣を表し，ほぼ｢-ju bayiqu｣と代替できる。しかし，同時型｢-n｣は「-n～n bayiqu」という形で，反復を表す場合,｢-ju bayiqu｣と入れ替えることはできない。それに,前接動詞が限界動詞の場合，｢-ju bayiqu｣と違って「-n bayiqu」は使用不可能となる。これは｢-ju bayiqu｣と「-n bayiqu」の最も大きな相違点であろう。

モンゴル語の補助動詞の前接動詞との接続パターンには結合型｢-ju/jU,cu/cU｣，分離型｢-Gad/ged｣，同時型｢-n｣の三種類がある。だが，同時型｢-n｣の使用範囲は他の二つと比べ，かなり限られている。それに，同時型｢-n｣は主に書き言葉で使用され，現代モンゴル語では殆ど使用されていないようである。そのため，本研究では主に結合型｢-ju/jU,cu/cU｣と分離型｢-Gad/ged｣に絞って考察するが，モンゴル語の補助動詞を分析する上で，必要に応じて同時型｢-n｣も取り上げていきたい。

三、補助動詞｢～ている｣と｢bayiqu｣との対照

モンゴル語の補助動詞より日本語の補助動詞の研究が進んでいるため,ここでは，主に日本語

の補助動詞「～ている」の本研究での位置付けに従って，「動作の継続」,「結果の持続」,「経歴」,「反復」,「単なる状態」の五つの側面から補助動詞「bayiqu」と対照し,その類似点と相違点を究明していきたい。そして,二つの補助動詞の対照の結果を先に表で提示すると表１のようである。

表１補助動詞「～ている」と「bayiqu」

<table>
<tr><td colspan="4" rowspan="2">補助動詞
意味　動詞のタイプ</td><td rowspan="2">～ている</td><td colspan="2">bayiqu</td></tr>
<tr><td>-ju bayiqu</td><td>-Gad bayiqu</td></tr>
<tr><td rowspan="8">基本的な意味</td><td rowspan="7">動作動詞</td><td colspan="2">主体動作・客体変化</td><td colspan="2" rowspan="2">動作の継続</td><td rowspan="2">結果の持続</td></tr>
<tr><td rowspan="2">主体動作</td><td>意志的な動き</td></tr>
<tr><td>非意志的動き</td><td colspan="2">動作の継続</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">主体変化</td><td>瞬間的な変化</td><td>結果の持続</td><td></td><td rowspan="3">結果の持続</td></tr>
<tr><td>過程を持つ変化</td><td>結果の持続</td><td>動作の継続</td></tr>
<tr><td>再帰動詞</td><td colspan="2">動作の継続 / 結果の持続</td></tr>
<tr><td colspan="2">心理動詞</td><td colspan="2">動作の継続</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="3">状態動詞</td><td colspan="2">単なる状態</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4" rowspan="2">派生的な意味</td><td>経歴</td><td colspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="3">反復</td></tr>
</table>

（一）動作の継続を表す場合

前接動詞が「主体動作･客体変化」,又は「主体動作」を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」は「動作の継続」を表す。他方,補助動詞「bayiqu」は「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」の両方の言い方が可能である一方,表現している意味が異なっている。「-ju bayiqu」は動作の継続を表すのに対し,「-Gad bayiqu」は結果の持続を表す。

(1)お母さんが料理を温めている。

(a)eji　qoGula　qalaGal=ju　bayi=n_a　---動作の継続

母　料理　温める－CVB　いる－PRES

(b)eji　qoGula　qalaGal=Gad　bayi=n_a　---結果の持続

母　料理　温める－CVB　いる－PRES　(母が料理を温めてある。)

(2)彼が部屋を片付けている。

(a)tere　ger-iyen　ceberle=jU　bayi=n_a　－－動作の継続

彼　家－REFL　片づける－CVB　いる－PRES

(b)tere　ger-iyen　ceberle=ged　bayi=n_a　－－結果の持続

彼　家－REFL 片づける－CVB　いる－PRES　(彼が部屋を片付けてある。)

(3)子供が床を拭いている

(a)keUked　Sala-yi　jUlgU=jU　bayi=n_a　――動作の継続

子供　床－ACC 拭く－CVB　いる－PRES

(b)keUked　Sala-yi　jUlgU=ged　bayi=n_a　――結果の持続

子供　床－ACC 拭く－CVB　いる－PRES　(子供が床を拭いてある。)

(4)彼は紙を燃やしている。

(a)tere　caGasu　sitaGa=ju　bayi=n_a　――動作の継続

彼　紙　燃やす－CVB　いる－PRES

(b)tere　caGasu　sitaGa=Gad　bayi=n_a　――結果の持続

彼　紙　燃やす－CVB　いる－PRES　(彼は紙を燃やしてある。)

以上四つの例文では,補助動詞「～ている」は動作の継続を表している。例文(1)(2)において,補助動詞「～ている」の前接動詞は「主体動作･客体変化」を表す動詞であり,例文(3)(4)において,補助動詞｢～ている｣の前接動詞は｢主体動作｣を表す動詞である。一方, 例文(1a)(2a)(3a)(4a)では,補助動詞｢bayiqu｣は前接動詞と結合型｢-ju bayiqu｣で結合し,動作の継続を表している。だが,例文(1b)(2b)(3b)(4b)では,補助動詞｢bayiqu｣は分離型｢-Gad bayiqu｣で結合し,動作･行為が終わった結果状態が持続していることを表し,日本語の補助動詞｢～てある｣に訳せる。

例文(3)(4)において,補助動詞｢～ている｣の前接動詞｢拭く｣｢燃やす｣は主体動作によって客体に変化が発生しているものの,主体の動作･行為が焦点化されている動詞である。一方,｢食べる,走る,歩く,見る,…｣等の動詞も主体動作を表す動詞であるものの,｢拭く,燃やす｣等と違って,主体の行為の結果状態がかなり読み取りにくい動詞である。この場合,補助動詞｢～ている｣は無論動作の継続を表し,補助動詞｢bayiqu｣の結合型｢-ju bayiqu｣と相互に対応する。しかし,補助動詞｢bayiqu｣の分離型｢-Gad bayiqu｣の場合は結果状態が明確に持続されているとは分かりにくいものの,主体に何等かの変化が起こり,それが持続していることは確かである。そのため,この場合も結果の持続を表していると扱うことにする。

(5)子供がご飯を食べている。

(a)keUked　qoGula-ban　ide=jU　bayi=n_a　――動作の継続

子供　ご飯－REFL 食べる－CVB　いる－PRES

(b)keUked　qoGula-ban　ide=ged　bayi=n_a　――結果の持続

子供　ご飯－REFL 食べる－CVB　いる－PRES (子供がご飯を食べてある。)

(6)彼が本を読んでいる。

(a)tere　nom　ungsi=ju　bayi=n_a　――動作の継続

彼　本　読む－CVB　いる－PRES

(b) tere　nom　ungsi=Gad　bayi=n_a　――結果の持続

彼　本　読む―CVB　いる―PRES　(彼は本を読んである。)

そして,前接動詞が主体動作であるが,「飛ぶ,降る,さえずる,…」等,非意志的な動き,現象を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」と結合型の「-ju bayiqu」は動作の継続を表す。しかし,分離型「-Gad bayiqu」は動きや変化が起こった直後の結果状態を表し,日本語では「～したところだ」と訳した方がより自然である。

(7)虫が動いている。

(a) ene　qoruqai　kOdel=jU　bayi=n_a

この　虫　動く―CVB　いる―PRES

(b) ene　qoruqai　kOdelU=ged　bayi=n_a

この　虫　動く―CVB　いる―PRES

(この虫が動いたところだ/??この虫が動いてある。)

(8)雨が降っている。

(a) boruGan　oru=ju　bayi=n_a

雨　降る―CVB　いる―PRES

(b) boruGan　oru=Gad　bayi=n_a

雨　降る―CVB　いる―PRES

(雨が降ったところだ/??雨が降ってある。)

例文(7)では,補助動詞「bayiqu」の結合型「-ju bayiqu」は虫が動いている最中であることを表しているが,分離型「-Gad bayiqu」は虫がある場所から他の場所へ移動した直後の結果状態を表している。例文(8)では,結合型「-ju bayiqu」は雨が降る現象が進行していることを表し,分離型「-Gad bayiqu」は雨がやんだ直後の結果状態を表している。

また,前接動詞が心理的な動きを表す心理動詞の場合,補助動詞「～ている」と「bayiqu」は相互に対応し,「動作の継続」を表す。ただし,補助動詞「bayiqu」が結合型「-ju bayiqu」の場合は自然であるが,分離型「-Gad bayiqu」の場合はやや不自然である。

(9)ここで何を書くのかについて考えている。

ende　yaGu　bici=kU　tuqai　bodulkila=ju/?Gad bayi=n_a

ここ　何　書く―PRTC　(について)　考える―CVB　いる―PRES

(10)彼がきっと来ると信じていた。

tere　labtai　ire=n_e　gejU　itegeje=jU/?ged bayi=jai

彼　きっと　来る―FUT　～と　信じる―CVB　いる―PAST

既に述べているように,心理動詞は終結点が存在しないものの,開始点が存在する動作性がかなり弱い動作動詞である。そのため,後接する補助動詞「～ている」はその心理的動きが終結点へ進行しつつあること,つまり動作の継続を表す。この場合,「-ju bayiqu」は動作の継続を表しているため自然であるが,「-Gad bayiqu」は心理的な動きが終わった結果状態が持続していることを表すようになるため,不自然である。

以上,補助動詞「～ている」が動作の継続を表す場合,補助動詞「bayiqu」とは相互にどのように対応するのかを考察した。前接動詞が「主体動作・客体変化」,又は「主体動作」動作動詞の場合,補助動詞「～ている」と補助動詞「bayiqu」の結合型「-ju bayiqu」は相互に対応し,動作の継続を表すが,補助動詞「bayiqu」の分離型「-Gad bayiqu」は違って結果の持続を表し,補助動詞「～てある」に訳すことができる。ただし,前接動詞が非意志的な動き,現象を表す動詞の場合,分離型「-Gad bayiqu」は雨後おきや変化の結果状態を表し,補助動詞「～したところだ」が表す「動きの直後の場面」の意味に近い。また,前接動詞が心理動詞の場合,補助動詞「～ている」と補助動詞「bayiqu」の結合型「-ju bayiqu」は相互に対応し,動作の継続を表すが,分離型「-Gad bayiqu」は不適切である。

（二）結果の持続を表す場合

前接動詞が主体変化を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」はある状態から他の状態へと変化した結果の持続を表す。一方,補助動詞「bayiqu」は分離型「-Gad bayiqu」の方が自然であり,結合型「-ju bayiqu」の場合はやや不自然である。

(11)服が水に<u>濡れている</u>。

debel	usun-du	<u>noru=?ju/Gad</u>	<u>bayi=n a</u>
服	水－DAT	濡れる－CVB	いる－PRES

(12)木の枝が<u>折れている</u>。

modu-n	salaG_a	<u>quGura=?ju/Gad</u>	<u>bayi=n a</u>
木－GEN	枝	折れる－CVB	いる－PRES

(13)そこに犬が<u>死んでいる</u>。

tende	nomai	<u>UkU=?jU/ged</u>	<u>bayi=n a</u>
そこ	犬	死ぬ－CVB	いる－PRES

例文(11)は服が水に濡れた結果状態が持続していることを表し,例文(12)は枝が折れた結果が持続していることを表している。また,例文(13)は犬が死んだ結果状態が持続していることを表している。この場合,補助動詞「bayiqu」は分離型「-Gad bayiqu」の方が自然であるが,結合型「-ju bayiqu」は不自然である。⑩

例文(11)～(13)の「濡れる,折れる,死ぬ」は主体の瞬間的な変化を表す動詞であり,補助動詞「～ている」と分離型「-Gad bayi-」は相互に結果の持続を表す。そして,「枯れる,凍る,冷める,増える,腐る,…」等,主体の変化の過程を持つ動詞の場合でも,補助動詞「～ている」は通常,結果の持続を表す。しかし,モンゴル語の補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」は変化の進行を表すが,分離型「-Gad bayiqu」は変化の結果の持続を表す。

(14)秋になり,草花が<u>枯れている</u>。

(a)namur mol=ju ebesU ceceg qubaqayira=ju bayi=n_a ――変化の継続

秋 なる―CVB 草 花 枯れる―CVB いる―PRES

(秋になり,草花が枯れつつある。)

(b)namur mol=ju ebesU ceceg qubaqayira=Gad bayi=n_a ――結果の持続

秋 なる―CVB 草 花 枯れる―CVB いる―PRES

(15)足の傷が治っている。

(a)kUl-Un sirq_a idegere=jU bayi=n_a ――変化の継続

足―GEN 傷 治る―CVB いる―PRES (足の傷が治りつつある。)

(b)kUl-Un sirq_a idegere=ged bayi=n_a ――結果の持続

足―GEN 傷 治る―CVB いる―PRES

例文(14a)は草花が枯れつつあることを表しているのに対し,例文(14b)は完全に枯れた状態にあることを表している。同じく,例文(15a)は傷が治りつつあることを表しているのに対し,例文(15b)は傷が治った結果状態を表している。従って,日本語の補助動詞「～しつつある」が変化の進展を表す場合,補助動詞「-ju bayiqu」と相互に対応できる。

また,次の例文のように,変化の過程を表す成分と共起した場合,補助動詞「～ている」は変化の進展を表す。この場合,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」が継続を表すが,分離型「-Gad bayiqu」は不自然な文になる。

(16)お湯が徐々に冷めている。

qalaGun usu alGur-iyar kUr=cU/?ged bayi=n_a

お湯 徐々に―INST 冷める―CVB いる―PRES

さらに,前接動詞が主体変化を表す動詞の中で,特に主体の動作によって主体に変化をもたらす再帰的な意味を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」は結果の持続を表す。この場合,補助動詞「bayiqu」は「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は同じく結果の持続を表す。

(17)バトは椅子に座っている。

batu sandali deger_e saGu=ju/Gad bayi=n_a

バト 椅子 上 座る―CVB いる―PRES

(18)お母さんが子供を抱いていた。

eji-ni keUked-i teberi=jU/ged bayi=l_a

母―3POSS 子供―ACC 抱く―CVB いる―PAST

ただし,時間を表す副詞,又は動作の様態を表す副詞と共起した場合,補助動詞「～ている」は「動作の継続」を表すようになる。この場合,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」は,「動作の継続」を表すが,分離型「-Gad bayiqu」は不自然であり,結果の持続を表せない。

(17a)バトは椅子に二時間座っている。

batu sandali deger_e qoyar caG saGu=ju/?Ged bayi=n_a

バト 椅子 上 二時間 座る－CVB いる－PRES

(18a)お母さんが子供をしばらく抱いていた。

eji-ni keUked-i udatal_a teberi=jU/?ged bayi=l_a

母－3POSS 子供－ACC しばらく 抱く－CVB いる－PAST

また,前接動詞が主体の変化,且つ再帰的な意味を表す動詞の中,変化の過程を持つ動詞「着る,履く,脱ぐ,…」等の場合,補助動詞「～ている」には動作の継続と結果の持続との両方の意味が含まれ,共起する成分によって,どちらかの意味が前面化される。

(19)ナランは民族衣装を着ている。

naran UndUsUten-U qobcasu-ban emUs=cU/ged bayi=n_a

ナラン 民族衣装－REFL 着る－CVB いる－PRES

例文(19)において,補助動詞「～ている」は動作の継続と結果の持続との両方の意味を表していると考えられる。この場合,補助動詞「bayiqu」において,分離型「-Gad bayiqu」は無論,結果の持続を表す。だが,結合型「-ju bayiqu」には,動作の継続と結果の持続との両方の意味が含まれている。

だが,次の例文(19a)のように,動作の様態(又は時間)を表す副詞と共起した場合,補助動詞「～ている」は動作の継続の意味が焦点化される。これと同じく,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」が表す動作の継続の意味が焦点化される。

(19a)ナランはゆっくりと民族衣装を着ている。

naran alGur UndUsUten-U qobcasu-ban emUs=cU/?ged bayi=n_a

ナラン ゆっくり 民族衣装－REFL 着る－CVB いる－PRES

以上の考察をまとめると次のようである。前接動詞が主体変化を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」は通常,結果の持続を表す。一方,補助動詞「bayiqu」は前接動詞が主体変化を表す動詞の中で,瞬間的な変化を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」と「-Gad bayiqu」は相互に対応し,結果の持続を表す。だが,変化の過程を持つ主体の変化を表す動詞の場合,補助動詞「～ている」と「-Gad bayiqu」は結果の持続を表すが,「-ju bayiqu」は継続を表す。更に,前接動詞が再帰的な意味を含む主体変化を表す動詞の場合,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」と分離型「-Gad bayiqu」との両方の接続パターンが可能であり,共起する文要素によって,「-ju bayiqu」は動作の継続を表すが,「-Gad bayiqu」は不自然である。

(三)経歴を表す場合

補助動詞「～ている」はある動きがかつてあったことが主体の状態に何等かの関係を持つこと,即ち「経歴」を表すことができる。だが,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」と分離型「-Gad bayiqu」との両方の言い方は不自然である。

(20)彼は二年前日本に行っている。

??tere qoyar jil-un emUn_e yapon-du oci=ju/Gad bayi=n_a

彼　　二年前　　　　　日本ーDAT いくーCVB　　いるーPRES

(21)その先生と一度会っている。

??tere　baGsi tai　nige udaG_a　aGulja=ju/Gad　bayi=n_a

その　先生と　一度　　　会うーCVB　　いるーPRES

(22)子供の頃,重い病気になっている。

??keUked-Un　Uy_e-du kUndU　ebedcin-dU　nerbegde=jU/ged　bayi=n_a

子供ーGEN　頃ーDAT 重い　病気ーDAT　患うーCVB　いるーPRES

以上の例文から,経歴を表す場合,補助動詞「～ている」と「-ju bayiqu」,「-Gad bayiqu」とが相互に対応しない。モンゴル語では,経歴を表すのに,(a)「-Gsan/gsen＋bayiqu」,(b)「-ju/Gad＋OnggerekU」の二種類が存在する。

(20a)tere　qoyar jil-un emUn_e　yapon-du　oci=Gsan　bayi=n_a

彼　二年前　　　日本ーDAT 行くーPRTC　いるーPRES

(彼は二年前に日本に行っていた。)

(20b)tere　qoyar jil-un emUn_e　yapon-du　oci=ju/Gad　Onggere=gsen

彼　二年前　　　日本ーDAT 行くーCVB　過ぎるーPRTC

(彼は二年前に日本に行ったことがある。)

(21a)tere　baGsi tai　nige udaG_a　aGulja=Gsan　bayi=n_a

その　先生と　一度　　会うーPRTC　いるーPRES

(その先生と一度会っていた。)

(21b)tere　baGsi tai　nige udaG_a　aGulja=ju/Gad　Onggere=gsen

その　先生と　一度　　会うーCVB　過ぎるーPRTC

(その先生と一度会ったことがある。)

(22a)keUked-Un　Uy_e-dU kUndU　ebedcin-dU　nerbegde=gsen　bayi=n_a

子供ーGEN　頃ーDAT 重い　病気ーDAT　患うーPRTC　いるーPRES

(子供の頃重い病気になっていた。)

(22b)keUked-un　Uy_e-dU kUndU　ebedcin-dU nerbegde=jU/ged　Onggere=gsen

子供ーGEN　頃ーDAT 重い　病気ーDAT 患うーCVB　過ぎるーPRTC

(子供の頃重い病気になったことがある。)

例文(20a)(21a)(22a)は「過去・完了」を表す動詞語尾「-Gsan/gsen」と補助動詞「bayiqu」が結合して経歴を表し,日本語の「～ていた」に相当する。そして,例文(20b)(21b)(22b)は「経つ,過ぎる」を

表す動詞「OnggerekU(過ぎる)」が前接動詞と結合型「-ju/jU,cu/cU」,又は分離型「-Gad/ged」で結合し,「経歴」を表している。

要するに,補助動詞「～ている」が経歴の意味を表す場合,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」と分離型「-Gad bayiqu」との接続パターンでは経歴を表せない。モンゴルでは,「-Gsan/gsen＋bayiqu」,又は「-ju/Gad＋OnggerekU」の形で表現するほうがより自然である。

だが,管見では「－Gsan/gsen＋bayiqu」は主に書き言葉で多く使われるのに対し,「-ju/Gad＋OnggerekU」は主に話し言葉で多く使われるようである。また,本研究での定義から考えると,動詞「OnggerekU(過ぎる)」も補助動詞としての役割を果たしていることになる。しかしながら,これまでの研究では,動詞「OnggerekU(過ぎる)」が内容語から機能語へと文法化するのか否かについてほぼ研究されていない。それに,本研究では,動詞「OnggerekU(過ぎる)」は研究対象外の動詞であるため,これ以上立ち入ることが出来ず,「-Gsan/gsen＋bayiqu」及び「結合型/分離型＋OnggerekU」についての詳細な分析は今後の研究に譲りたい。

（四）反復を表す場合

補助動詞「～ている」が同じ事が繰り返しに行われる事を表す場合,前接する動詞の性質と動詞のタイプとは関係しない。

(23)子供が何回もテレビを壊している。

keUked	kedU udaG_a	telwis-i		ebdele=jU/ged	bayi=n_a
子供	何回	テレビ－ACC	壊す－CVB		いる－PRES

(24)この本は三回も読んでいる。

ene	nom-i	Gurba udaG_a	ungsi=ju/Gad	bayi=n_a
この	本－ACC	三回	読む－CVB	いる－PRES

(25)電気が次々と消えている。

cakilGan deng	daraG_a daraG_a-bar	untara=ju/Gad	bayi=n_a
電気	次々と－INST	消える－CVB	いる－PRES

例文(23)は前接動詞が主体動作･客体変化を表す動詞であり,例文(24)は前接動詞が主体動作を表す動詞であり,例文(25)は前接動詞が主体変化を表す動詞である。補助動詞「～ている」は「何回も,三回,次々と」等,繰り返しを表す副詞と共起し,反復の意味を表している。この場合,補助動詞「bayiqu」も反復の意味を表し,補助動詞「～ている」と相互に対応している。

なお,モンゴル語では,補助動詞「bayiqu」は副詞と共起して反復の意味を表す他,前接動詞と補助動詞「bayiqu」の間に助詞「la」が挿入し,反復の意味を表す場合もある。

(26)弟がいつも本を読んでいる。

degUU	kejiyete	nom	ungsi=ju/Gad	la	bayi=n_a
弟	いつも	本	読む－CVB	FP	いる－PRES

(27)彼は毎日遊んでいる。

tere　edUr-tU-ben　naGad=cu/Gad　la　bayi=n_a

彼　毎日－DAT－REFL　遊ぶ－CVB　FP　いる－PRES

「結合型「-ju/jU, cu/cU」＋la＋bayiqu」と「分離型「-Gad/ged」＋la＋bayiqu」は同じく動作・行為が繰り返しに行われることを表している。ただ,前者の結合型と比べ,後者の分離型の方は話し手の不愉快な気持ちが含まれ,その反復に行われる動作・行為が周囲に迷惑をかけているため,その行為をやってほしくないというネガティブの意味を含む場合がある。

(28) eji-ben　sana=Gad　la　bayi=n_a

母－REFL　恋しむ－CVB　FP　いる－PRES

(いつも母のことを恋しんでいる。)

(29) tere　man-u-du　ire=ged　le　bayi=n_a

彼　私－GEN－DAT　来る－CVB　FP　いる－PRES

(彼はいつも我が家に来ている。)

例文(28)(29)は同じく「分離型「-Gad/ged」＋la＋bayiqu」であり,補助動詞「bayiqu」は反復を表している。だが,例文(28)には迷惑の意味が含まれていないのに対し,例文(29)には,マイナスの意味が含まれ,反復に行われる行為が話し手にとって迷惑になっていることを表している。「分離型「-Gad/ged」＋la＋bayiqu」において,どのような場合はマイナスの意味を含むのかについては今後の研究で詳しく考察していきたい。

（五）単なる状態を表す場合

前接動詞が状態動詞の場合,補助動詞「～ている」は物事の状態を表す。第一節では,既に述べているように,状態動詞には三種あるが,本研究では主に「スル・シテイル形状態動詞」(例文(30))と「シテイル形のみの状態動詞」(例文(31))との二種類を扱うことにする。

(30) 彼は母親に依存している。

tere　eji-ben　tUsigle=jU/?ged　bayi=n_a

彼　母－REFL　依存する－CVB　いる－PRES

(31) 日本は太平洋に面している。

yapon　nomuqan dalai tai　niGurla=ju/?Gad　bayi=n_a

日本　太平洋と　面する－CVB　いる－PRES

補助動詞「～ている」と「bayiqu」が相互に対応し,「単なる状態」を表すことができる。ただし,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」の場合は自然であるのに対し,分離型「-Gad bayiqu」の場合は座りの悪い文になる。(11)

四、まとめと今後の課題

本研究では,補助動詞「～ている」の本研究での位置付けに従って,補助動詞「bayiqu」と対照し,その類似点と相違点を考察した。

補助動詞「～ている」と「-ju bayiqu」は「動作の継続」,「結果の持続」,「単なる状態」,「反復」を表す面で共通点を持っているものの,「経歴」を表す面で異なっている。そして,補助動詞「～ている」と「-Gad bayiqu」は「結果の継続」,「反復」を表す面で共通しているものの,「動作の継続」,「単なる状態」,「経歴」を表す面で異なっている。

補助動詞「～ている」が基本的な意味を表す場合,補助動詞「bayiqu」は前接する動詞のタイプ及び接続パターンによって異なる意味を表す。前接動詞が主体動作･客体変化,又は主体の意志的な動作を表す動詞及び過程を持つ主体変化動詞の場合,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は同じく「動作の継続」「結果の持続」を表す。しかし,前接動詞が主体の非意志的な動き,又は心理動詞の場合,「-ju bayiqu」は「動作の継続」を表すが,「-Gad bayiqu」は表現できない。また,前接動詞が状態動詞の場合,「-ju bayiqu」は「単なる状態」を表すが,「-Gad bayiqu」は不自然である。また,「反復」と「経歴」の派生的な意味を表す場合,「-ju bayiqu」と「-Gad bayiqu」は共通点を持っている。

一方,補助動詞「～てある」と「bayiqu」は「結果の持続」及び「効力の残存」を表す点で概ね一致している。ただし,補助動詞「bayiqu」は前接する動詞との接続パターンによって,表現する意味が異なる。

前接動詞が主体の意志的な行為,且つ瞬間的な行為を表す動詞の場合,補助動詞「～てある」は「結果の持続」を表す。他方,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」と分離型「-Gad bayiqu」の両方の接続パターンで「結果の持続」を表すことができる。一方,前接動詞が主体の意志的な行為,且つ過程を持つ動詞の場合,補助動詞「～てある」は「結果の持続」を表す。他方,補助動詞「bayiqu」は結合型「-ju bayiqu」が「動作の継続」を表すのに対し,分離型「-Gad bayiqu」は「結果の持続」を表す。

補助動詞「～ている」と「bayiqu」との異同点を考察するによって,明らかになった点があれば,今度の課題として残された問題点も存在している。その一つは「経歴」表す場合である。補助動詞「～ている」と「-ju bayiqu」「-Gad bayiqu」が相互に対応できず,「-Gsan/gsen＋bayiqu」,又は「-ju/Gad＋OnggerekU」の形で表現する。この場合,動詞「OnggerekU(過ぎる)」が文法化し,機能語になっているのか否かは考察されていない。また,「-Gsan/gsen＋bayiqu」は「経歴」の意味以外にどのような文法的な意味を表すのかは考察されていない。

それに,補助動詞「bayiqu」は前接する動詞のタイプ及び接続パターンによって表現する意味が異なる。結合型「-ju bayiqu」と分離型「-Gad bayiqu」は重なるところもあれば,異なる部分も存在していることが分かった。今回の対照研究ではその表現形式に重点を置いて考察し,奥深くまで究明できておらず,異なる原因については十分な説明が出来ていない。

今後の研究では,以上に記述した課題について研究を行い,動詞「いる」と「bayiqu」

が内容語から機能語へ文法化する過程及び,動詞「bayiqu」の接続パターンとの特徴を究明していきたい。

注释

①工藤(1995:70)では,「(A)外的運動動詞(dynamic verb)は時間の中に成立(開始)・展開・消滅(終了)し,場合によっては,結果を残す,ものの動態的な運動をとらえている動詞らしい動詞である」と述べている。例え:開ける,切る,殺す,食べる,見る,読む,等。

②工藤(1995: 70)では,(B)内的情態動詞は時間的展開があるがゆえに,スル¯シテイルのアスペクト対立が成立するのだが,内的な思考や感情や感覚は,話し手のみが直接感知(体感)できるこのであると述べている。例え:思う,考える,信じる,望む,心配する,等

③工藤(1995: 70)では,「(C)静態動詞(static verb)は時間の中への現象を問題にしえない「異なる,意味する」や「甘すぎる,優れている」のような<関係・特性>をとらえているのか,時間のなかに現像したとしても,時間的展開性のない,「いる,存在する」や「そびえている,面している」のような<存在・空間的配置>とらえている,スタティックなものである。」と述べている。例え:ある,いる,存在する,異なる,優れている,精通している,等。

④工藤(1995: 71) 。(A・1)主体動作・客体変化動詞¯開ける,折る,消す,倒す,曲げる,入れる,並べる,抜く,等。

⑤工藤(1995: 72) 。(A・2)主体変化動詞¯行く,来る,帰る,立つ,並ぶ,開く,等。

⑥工藤(1995: 72) 。(A・3)主体動作動詞¯動かす,回す,蹴る,押す,食べる,見る,等。

⑦日本語の状態動詞は次のように3種類に分けられる(奥田(1978),日本語記述文法研究会(2007))。

(1)シテイル形を持たないもの: ある,居る,できる,話せる,等。

(2)スル・シテイル形を持つもの: 存在する,関連する,対立する,異なる,等。

(3)シテイル形のみを持つもの: 優れている,聳えている,変わっている,等。

⑧松岡(2008)で述べている動詞の分類の定義と例を挙げると次のようである。(モンゴル文字の転写は本研究の転写方法で示す。)

状態動詞: 「-ju bayi-」の有無によってアスペクト的意味が変わらない動詞。

例: bayi-(ある, いる) mede-(知る) qayirala-(愛する)…

動作動詞: 「-ju bayi-」の有無によってアスペクト的意味が変わる動詞。

非限界動詞: 動作動詞の中で「-Gad bayi-」が「結果性」を表すことができないもの。

例: ajilla-(働く)iniye-(笑う) naGad-(遊ぶ) ungsi-(読む)salkila-(吹く)…

限界動詞: 動作動詞の中で「-Gad bayi-」が「結果性」を表すことができるもの。

結果限界動詞: 動詞が含意する動作終了後の結果状態を, 動きのあるものとして捉えられるもの。例: emUs-(着る) negege-(開く)tebere-(抱く)saGu-(座る)…

進行限界動詞: 動詞が含意する動作終了後の結果状態を, 動きのあるものとして捉えられないもの。例: ala-(殺す) bari-(建てる) ire-(来る) kUrkU-(着く) qayila-(溶ける)

una-(落ちる)oci-(行く)…

⑨例文(24)において,「-Gad bayi-」は普通動作の結果状態が持続していることを表すが,何棟もビルを建て続けていると考えた場合は反復の意味を表す。次の例文も同じである。

tende	kOmUn	<u>UkU= ged</u>	<u>bayi=n_a</u>	
そこ	人	死ぬ－CVB	いる－PRES	(そこに人が<u>死んでいる</u>。)

この例文はそこに一人の人が死んでいる状態を表せるが,偶然であるが,そこに何人の人が次々と死んでいること,つまり,反復の意味を表す。

⑩ただし,主体が複数の場合,主体の瞬間的な変化を表す動詞でも,補助動詞「~ている」は物事の変化の継続を表す。この場合,補助動詞「bayiqu」において,結合型「-ju bayiqu」が自然であり,変化の継続を表すことができる。例文(1)は風で多くの木の枝が次々と折れていくことを表し,例文(2)は何かの原因で多くの犬が絶えずに死んでいることを表している。

(1) salkin-du　modu-n　salaG-a　quGura=ju　bayi=n-a

風-DAT　木-GEN　枝　折れる-CVB　いる-PRES　(風で木の枝が折れている。)

(2) tende　olan　nomai　UkU=jU　bayi=n-a

そこ　多い　犬　死ぬ-CVB いる-PRES　(そこに多くの犬が死んでいる。)

また,「濡れる」は主体の瞬間的な変化を表す動詞であり,補助動詞「~ている」と分離型「-Gad bayiqu」は相互に対応し,結果の持続を表す。ただし,「服が水に濡れつつある」状態,つまり変化の進展を表す場合,補助動詞「bayiqu」は結

合型「-ju bayiqu」が自然である。

(3) debel　usun-du　aGajim-iyar　noru=ju　bayi=n-a

服　水-DAT　徐々に　濡れる-CVB　いる-PRES

(服が水に徐々に濡れている/ぬれつつある。)

⑪ただし,日本語では,「いる」は存在を表す状態動詞であり,且つ「シテイル形」を持たない動詞である。そのため,「家にいている」という表現は不自然であり,非文になる。しかし,モンゴル語では,「bayiju/Gad　bayin-a」は自然である。この点で,補助動詞「~ている」と「bayiqu」は異なっている。

(1) tere　anggi-yin ger-tU-ben　bayi=n-a

彼　教室-DAT-REFL　いる-PRES　(彼は教室にいる。)

(2) tere　anggi-yin ger-tU-ben　bayi=ju　bayi=n-a

彼　教室-DAT-REFL　いる-CVB いる-PRES　(彼は(しばらく)教室にいる。)

(3) tere　anggi-yin ger-tU-ben　bayi=Gad　la　bayi=n-a

彼　教室-DAT-REFL　いる-CVB　FP　いる-PRES

(彼はいつも教室にいる。)

例文(1)は無標形式であり,動詞「bayiqu」は存在を表している。これに対し,例文(2)(3)は有標形式であり,動詞「bayiqu」の実質的な意味が希薄化している。例文(1)は教室にいるか否かのただ存在を表しているのに対し,例文(2)は「教室にいる状態が時間的にしばらく持続することを表している。例文(1)に比べ,例文(2)は時間的に長く教室にいることを表す。一方,例文(3)において,「bayiGad　la　bayin-a」は反復を表し,いつも教室にいることを表している。

参考文献

[1] 奥田靖雄.アスペクトの研究をめぐって¯金田一的段階¯[J].国語国文,8 号,宮城教育大学国語国文学会,1977.51-63.

[2]奥田靖雄.アスペクトの研究をめぐつて(上)[J].教育国語,53号,むぎ書房,1978.33－44.

[3]奥田靖雄.アスペクトの研究をめぐつて(下)[J].教育国語,54号,むぎ書房,1978.14－27.

[4]奥田靖雄.時間の表現(1)[J].教育国語,94号,むぎ書房,1988.2－17.

[5]奥田靖雄.時間の表現(2)[J].教育国語,95号,むぎ書房,1988.28－41.

[6]小沢重男.モンゴール語四週間[M].大学書林, 1963.

[7]モンゴル語のテンスとアスペクト[A].学習院大学言語共同研究所紀要[C].10号,1987.16－21.

[8]蒙古語文語文法講義[M].大学書林，,1997.

[9]金水敏，工藤真由美,沼田善子.日本語の文法2　時・否定と取り立て[M].第一章,岩波書店,2000.1－92.

[10]金田一春彦.日本語動詞のテンスとアスペクト[A].金田一春彦編.日本語動詞のアスペクト[C].むぎ書房所,1979.27－61.

[11]工藤真由美.シテイル形式の意味記述[A].武蔵大学人文学会雑誌[C].13巻4号,武蔵大学人文学会　,1982.51－88.

[12]現代日本語のアスペクトについて[J].教育国語,91号,むぎ書房,1987.2－21.

[13]アスペクト・テンス体系とテキスト¯現代日本語の時間の表現¯[M].ひつじ書房, 1995.

[14]塩谷茂樹,Eプレブジャブ.初級モンゴル語[M].大学書林, 2001.

[15]鈴木重幸.日本語の動詞のすがた(アスペクト)について¯～スルと～シテイルの形¯[M].1957.

[16]日本語の動詞のとき(テンス)とすがた(アスペクト)¯～シタと～シテイタ¯[M].1958.

[17]仁田義雄.テンス・アスペクトの文法[A].ソフトウェア文書のための日本語処理の研究8[C]. 1987.

[18]日本語記述文法研究会.現代日本語文法2[M].くろしお出版, 2009.

[19]日本語記述文法研究会.現代日本語文法3[M].くろしお出版,2007.

[20]橋本邦彦.モンゴル語融合形副動詞接尾辞　-nの文法化[A].一般言語学論叢[C].8号,2005.1-19.

[21]フフバートル,小沢重男.モンゴル語基礎文法[M].インターブックス,1993.

[22]益岡隆志.命題の文法¯日本語文法序説[M].くろしお出版, 1987.

[23]益岡隆志.日本語文法の諸相[M].くろしお出版,2000.

[24]益岡隆志，仁田義雄,郡司隆男,金水敏.岩波講座　言語の科学5　文法[M].岩波書店, 1997.

[25]松岡雄太.モンゴル語のアスペクトに関する研究¯満州語・朝鮮語との対照¯[M].九州大学博士論文,2008.

[26]森山卓郎.日本語動詞述語文の研究[M].明治書院,1988.

[27]吉川武時.現代日本語動詞のアスペクトの研究[M].Linguistic Communication』Monush 9, 1973.

[28]白金刚,包满亮,孟根格日樂.新編日蒙詞典[M].海拉尔: 内蒙古文化出版社,1997.

[29]内蒙古大学中国語言学文系蒙語教研室編.Odu üy-e-yin mongγul kele[M].呼和浩特:　内蒙古人民出版社

出版，1964.

[30]内蒙古大学蒙古学研究院蒙古語文研究所.蒙漢辞典[M]. 呼和浩特: 内蒙古大学出版社,1996.

[31]清格爾泰.Mongγul kelen-ü tusalaqu üile üge-yin tuqai[J].内蒙古大学学术杂志, 1965.

[32]清格爾泰. *Odu üy-e-yin mongγul kele-n jüi[M].* 呼和浩特: 内蒙古人民出版社出版, 1979.

[33]清格爾泰.語文学術論文集[M].内蒙古大学蒙古語文研究所, 1986.

[34]清格爾泰.蒙古語語法[M].呼和浩特: 内蒙古人民出版社, 1991.

[35]清格爾泰.現代蒙古語[M].呼和浩特: 内蒙古人民出版社, 1999.

Focusing on Auxiliary Verbs“-teiru”and“bayiqu”

Badma

(Foreign Languages College of Inner Mongolia University，Inner Mongolia，Hohhot， 010021，China)

Abstract: The research is about the comparison between Japanese auxiliary verb “-teiru” and Mongolian auxiliary verb “bayiqu”, and analysis their similarities and differences. In addition, the grammatical meaning , types of verbs before and after it will be investigated.

Key words: Auxiliary Verb;Japanese;Mongolian;Similaity;Difference

收稿日期: 2014-10-28;

作者简介: 巴德瑪（1982-），女，蒙古族，内蒙古兴安盟科右中旗人。内蒙古大学外国语学院讲师，语言学博士，主要从事蒙古语言学方面的研究。